

ヨットハーバー芦屋における利用状況および利用者の意識調査

九州共立大学工学部 学生会員 高瀬 幹士  
九州共立大学工学部 正会員 片山 正敏

1. 研究目的

現在、わが国のウォーターフロントには、海水浴場、海浜公園、マリナーに代表される海洋性レクリエーション施設が数多く整備されている。これらの中でもとくにマリナーは、ヨットやボートが浮かぶ風景が、ぼう洋と広がる水面に動きやアクセントを生み出す景観の効果をもっているため、ウォーターフロント開発には、欠かせない施設となっている。

このため、本研究では、都市臨海部における水辺空間の利用状況および利用者の意識に関する調査の一環として、「ヨットハーバー芦屋」において、アンケート調査を実施し、そこで得た回答結果の分析を中心に検討する。

2. ヨットハーバー芦屋の概要

ヨットハーバー芦屋は、1973年に設立された、約4,950㎡(1,500坪)の敷地に200艇の保管能力を持つヨットハーバーである。

地理的にも、クルージングに最適の条件を備える玄界灘、藍の島から至近距離に位置しており、絶好の環境にある。遠賀川下流にあるため、川や海で水上スキーなどを楽しむことができ、海洋性スポーツ活動の拠点となっている。

3. アンケート調査の場所

アンケート調査は、福岡県遠賀郡芦屋町のヨットハーバー芦屋で行った。(図-1参照)

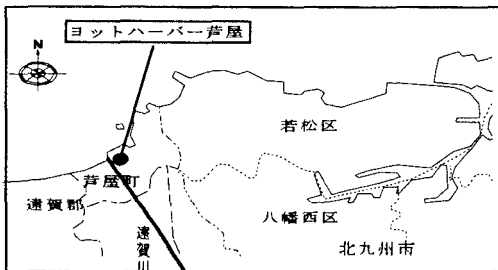


図-1 アンケート調査場所

4. アンケート調査結果

(1) 来訪者の年齢・性別・区分

① 来訪者の年齢

来訪者は、「20歳代」が41.9%、「30歳代」が21.7%と、夏場のマリンレジャーの特徴が現れている。(図-2参照)

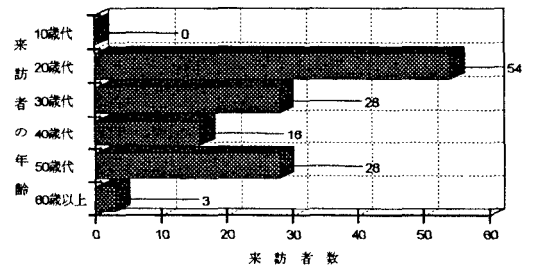


図-2 来訪者の年齢

② 来訪者の性別

男性が77.5%と圧倒的に多くなっている。

③ 来訪者の区分

区分は、「船艇オーナー」が20.1%、「クルー」が47.3%、「一般」が31.8%となっている。(2) 来訪目的・来訪回数・来訪頻度・増設希望施設

① 来訪目的

来訪目的(複数回答)は、クルージングが、45.9%と最も多くなっている。その他の目的としては、水上スキー、ウェイクボードが多い。(図-3参照)

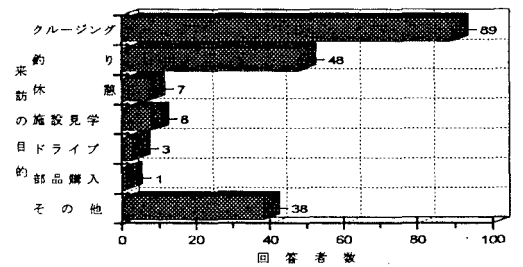
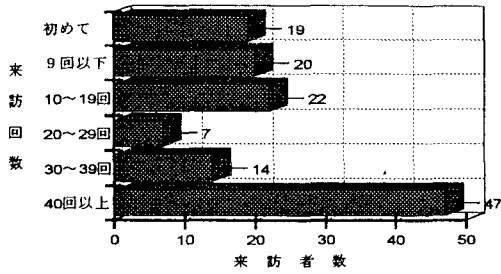


図-3 来訪の目的

② これまでの来訪回数・来訪頻度

来訪回数は、「40回以上」が、36.4%と最も多くなっている。20回以上来訪している人たちで、52.6%となり、リピーターが多い。(図-4参照)



図一4 これまでの来訪回数

また、来訪頻度では「1～2回/週」が36.4%と最も多く、続いて「1～2回/月」が27.9%となっている。約7割の人が月に1～2回以上利用している。

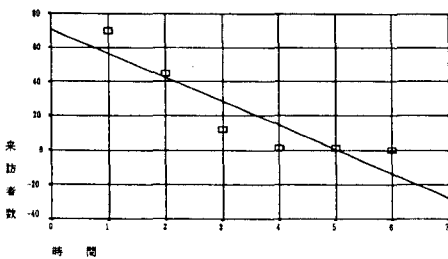
### ③ 増設希望施設（複数回答）

増設希望施設は、「食料などの売店」が最も多く31.4%となっている。続いて、「マリンショップ」が26.5%、「駐車場」が23.3%となっている。

## 5. SPSSによる分析結果

### (1) 単回帰分析

単回帰分析の中で、有意なデータが得られた「マリナーまでの所要時間(X)と来訪者数(Y)」の結果を図一5に示す。ヨットハーバー芦屋に来るまでの時間は1時間以内が非常に多く、それ以上になると来訪者数は極端に減少する。この結果より所要時間が短いほど来訪者が多いことがわかる。また、回帰直線は $Y = -14.086X + 70.800$ と求まる。相関係数が $-0.899$ であり、有意である。



図一5 所要時間についての分析結果

(注) 1: 30分以内 2: 30分～1時間以内  
3: 1～1.5時間以内 4: 1.5～2時間以内

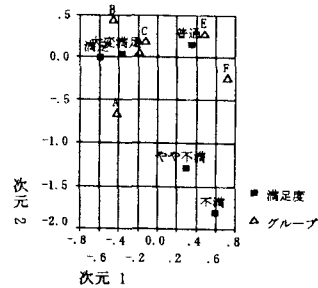
5: 2～2.5時間以内 6: 2.5時間以上

### (2) コレスポネンシ分析

ヨットハーバー芦屋の施設利用後の満足度は、各項目においてほとんどが、大変満足、満足と高い評価に

なっている。利用時間帯に関しては、B、C、Dと同じように+の評価をする人が多いが、やや不満の割合が、若干多くなっているため、少し離れている。EとFは、普通となっているが、「普通」という中間回答は、+の評価の近くにある。しかしサービス施設(E)・イベント情報(F)に関する満足度を上げるために、何か対策をした方がよいと考えられる。サービス施設に関してはアンケート調査結果より、食料などの売店の設置、マリンショップの充実が求められていることが分かり、これらを設置することで、満足度は高くなると思われる。(図一6参照)

なお、コレスポネンシ分析では、似たような列の構成になる行同士は近くに配置され、似たような行の構成になる列同士は近くに配置され、関係の強い行と列は近くに配置されるように、座標の数値を算出している。



図一6 施設利用後の満足度についての分析結果

(注) A: 利用時間帯 B: 安全性 C: 緊急時の連絡体制  
D: 整備・修理施設 E: サービス施設 F: イベント情報

## 6. ヨットハーバー芦屋に関する調査結果と考察

ヨットハーバー芦屋の利用者は、比較的若い世代の人が多く、年輩の来訪者は少ない。性別では、男性が約80%を占めている。女性が少ない理由としては、ヨットハーバー芦屋が、船を利用することを中心とした施設であることが影響していると考えられる。このことは、区分で、船艇オーナー、クルーが、約70%を占めていることと、来訪目的が、釣りやクルージングなど、船に依存していることからわかる。

ヨットハーバー芦屋は、施設利用後の意識、来訪後のイメージについて、かなり高い評価を得ている。しかし、利用者は、サービス施設の増設、周辺緑地など、ヨットハーバー芦屋がより快適に利用できる施設になることを望んでいることがわかる。